

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472201027
法人名	株式会社あおいけあ
事業所名	グループホーム 結
訪問調査日	平成 19 年 8 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 28 日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	1472201027
法人名	株式会社あおいけあ
事業所名	グループホーム 結
所在地	神奈川県藤沢市亀井野4 - 12 - 93 (電話) 0466-80-3779

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1 - 2 - 4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 28 日	評価確定日	平成 19 年 9 月 28 日

【情報提供票より】(19年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	10 人	常勤	6人 非常勤 4人 常勤換算 6.2人

(2) 建物概要

建物構造	(木造軸組み)造り 2階建ての (1)階 ~ (2)階部分
------	----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 450,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	320 円	昼食	320 円
	夕食	320 円	おやつ	40 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月1日 現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	86 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	フラワークリニック 鈴木デンタルクリニック 藤沢湘南台病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、小田急江ノ島線の駅から徒歩約8分ほどの、閑静な住宅地にあります。無垢の木がふんだんに使われた木造2階建ての建物です。
事業主が、高齢者福祉現場での経験を基に「自分が受ける身になって」考え、より良いケアサービスを目指して立ち上げたホームです。管理者も地域の人であり、今までの生活拠点の一部をグループホームに開放したため、地域に根ざした関係が自然と出来ています。また同事業者が運営する隣接のデイサービス、小規模多機能施設と併せて地域福祉の拠点を構築しており、近々、多様な相談を受けることの出来る窓口を開設し、地域住民との輪を広げて行きたいと意欲的に考えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題について改善が行われています。 「ホーム内の衛生管理」について、食中毒マニュアルや消毒方法マニュアルを作成して管理に努めています。「注意の必要な物品の保管・管理」について、手の届かない場所や施設出来る場所へ保管する等、利用者の特性や状況を把握して対応をしています。利用者の重度化が予想されますので、今後も注意を要する物品への対応は、特に気を配っていかれることが期待されます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価票を記入し、皆で話し合い検討しています。出来ている項目についても、利用者や家族にとってより良いサービスが出来るよう、具体的手段を挙げて取り組みを始めています。「再確認をして取り組みましょう」と気持ちを新たに、更なる質の向上を目指しています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>新しく始まった小規模多機能施設がどういふものかや職員の入れ替わりについての報告をしたり、家族の意見を揃い上げるなど、会議の場を活用しています。 今後は同事業者が運営する小規模多機能施設・デイケア施設と共に、より地域に貢献していくような取り組みについて考慮しています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>居室担当制にして利用者の様子を把握しやすいようにすると同時に、家族からの意見等を気軽に伝えられるようにしています。また運営推進会議を定期的開催することによって、不満・苦情を外部の人に言い易い環境も整えています。外部の苦情申立先は、入居に当たっての重要事項説明時に詳しく説明するとともに、玄関にもそれが掲示されています。更に進めて、家族に3ヵ月毎の「お便り」を発送する際に、苦情申立先の記載されたものを同封することを検討しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者が古くからの地域の人であり、今までの生活拠点の一部をグループホームに開放したため、地域との馴染みの関係、いわゆる近所付き合いの関係がグループホームの開設とともに始まっており、そのため地域との交流が自然と出来ています。また事業者・管理者は同じ事業者が運営する隣接のデイサービス、小規模多機能と併せて地域福祉の拠点を構築しており、更に地域住民のために相談窓口の開設を検討しています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3年前に、安全や清潔さを追求し過ぎて管理的になってきたのではないかと、何が1番かを問い直して、開設当初からの「地域の中に根ざして」という思いと「その人らしさを大切に」を新たな理念としました。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の「その人らしさ」はどうしたら保てるか、たとえば「オムツ」の使い方についても、睡眠との関係や昼間の過ごし方への影響など多面的に考慮する等、会議を始め日々掘り下げて話し合い取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が古くからの地域の人であり、今までの生活拠点の一部をグループホームに開放したため、地域との馴染みの関係、いわゆる近所付き合いの関係がグループホームの開設とともに始まっており、そのため地域との交流が自然と出来ています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を記入してもらい、管理者がまとめて皆で話し合い、「再確認をして取り組みましょう」と気持ちを新たに、具体的な改善へ向けての取り組みを始めています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見サービス向上に活かしている	新しく始まった小規模多機能施設がどういうものかや職員の入れ代わりについての報告をしたり、家族の意見を聞き上げるなど、会議の場を活用しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム連絡協議会や研修時など、定期的に市の担当者と意見交換ができる機会を持っており、共に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎に居室担当者から家族に、何枚かの写真を付けて暮らしぶりを伝える「お便り」を発送しています。金銭管理については毎月使用状況の報告を行っています。また利用者の状態の変化等には、その都度家族に電話で連絡するようにしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当制にして利用者の把握を容易にするとともに、家族から意見・苦情・要望を気軽に伝えることができるようにしています。また運営推進会議を定期的開催して、外部の人に苦情・要望を言い易い環境を整えています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単一事業所のため異動はありませんが、離職に対しては、管理者が悩みを抱えた職員に話をして困ったことを聞いてあげるようにして、できるだけ離職を最小限に抑えるよう努力しています。また新人が早期に自信を持って働けるような受入システム(新人指導マニュアル)を検討中です。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所に来る福祉関係の研修・講習会のDMを回覧したり、職員自ら希望する研修に参加できるよう配慮をしています。また参加した研修には報告書を提出させて、さらに報告の場を設けています。参加には、出勤扱いとし交通費の補助等をして支援しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会での情報交換は勿論のこと、管理者・職員が研修・講習会で知り合った同業者と積極的に交流をおこない、他施設の見学などを行っています。最近では、新人教育のあり方などを参考にし取り入れようとしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>アセスメントの前に何回か遊びに来てもらったりして雰囲気を知ってもらい、馴染めるような配慮をしています。また、「帰らなくては」と帰宅願望の強い利用者には、たっぴりと時間をとって話したり、桐ダンスやこたつ、仏壇、照明器具等、自宅と同じような居室作りを家族の協力と共にして納得してもらえるように努めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>現在、利用者は女性ばかりなので、夫や子供についての接し方の助言を聞いたり、食事のメニューや味付け、利用者の得意なことや昔の話をお互いにしながら、日々、共に過ごしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話や行動から、本質は何かを深く掘り下げて把握することを心がけています。今までと違う様子が見られた時は特記事項として申し送り、皆で検討して対応するようにしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを基に、日々の生活から得た本人の思いや希望、家族の要望を検討しながら介護計画の作成をしています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現在の介護計画が満たされているか、解決しているか、対応の仕方はどうか等、ケース会議で検討・見直しをしながら介護計画の作成をしています。基本的には3ヶ月ですが、入居時や病院退院後は2週間程、今までと違う様子が見られた時は随時と、必要に応じて作成しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっています。また、地元の大きなお祭りに家族の手を借りて行ったり、敬老の日にボランティアの協力を得ながら、同じ事業者が運営するデイサービスの利用をする等、柔軟な支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医により2週間に1回の往診を行っていますが、希望によりかかりつけ医の受診をしている利用者もいます。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明をしています。要介護度の高い利用者とその家族とは現段階においての状況を医者の見解を基に話し合いをしています。終末期におけるより手厚いケアが出来るような支援方法を考慮中です。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で気軽に話し合える雰囲気もあり、申し送り時や会議で話し合っています。個人情報の守秘義務については、職員とは誓約書にて確認、家族とは個人情報提供同意書にて取り決めを交わしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時の会話の中で様子を見ながら、今日どのように過ごそうか希望を聞いたりして、利用者の意向に沿った支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に準備、片付け等に利用者の能力に応じて参加してもらっています。メニューはあらかじめ決っていますが、その日の状況に応じて、外食、出前等の変化をつけたり、当日の会話からメニューを変更したりしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は「每晚、寝る前、一人ずつ」を基本にして、利用者の個々の希望に合わせて行っています。浴室もタイル張り家庭の風呂場と同じような大きさで、介助具の設備もなく、普段の家庭での入浴が楽しめるようにしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は女性ばかりなので、包丁を使った食事の手伝いや、洗濯物畳み、掃除等の家事全般をあえてお願いしています。また、外出・外食・ドライブ・映画鑑賞・ゲーム等の楽しみごとを提供しながら、生活に変化を与えています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺が開静な住宅地のため、また間近に公園があるため散歩・外出は日常的に行っています。重度の利用者には、庭の野菜(ミニトマト等)を見に連れ出し、その時に散歩に繋がるようにしています。家族にはボランティアの役目を担ってもらって、お祭り、外食等に同行して付き添ってもらっています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯に職員が一人になる時以外は玄関の施錠はしていません。昼間はリビング・ダイニングでの生活が大半であり、利用者数と職員数がほぼ2:1のため利用者の行動を把握し易く、また夜間は木造であることにより2階居室のドアの開閉の音が聞こえるため、それで利用者の動きを判断するようにしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時マニュアル、消防計画が用意されており、日中の訓練とともに夜間対応の訓練も行われています。運営推進会議では、万一の場合に地域の協力をお願いしています。		年内に地域の消防署に消火の仕方、避難訓練等の指導を仰ぐ予定であり、速やかな実施が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自立して食事をしている利用者が大半のため、現在は食事チェックの対象者が1名、水分チェックの対象者が3名です。水分は1000cc以上を目標に摂取を促しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に無垢の木がふんだんに使われており、施設らしくない家庭の雰囲気を出しています。共用空間には、季節の花、造花を飾って、生活感・季節感を出しています。リビング・ダイニングではTV・音楽の音を流しっ放しにしないように気をつけています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には出来るだけ今まで使ってきた馴染みの家具・生活用品を持ってきてもらうよう話をしており、居室には結婚当時から使用している桐タンス、仏壇等が置いてあり、その人の個性が感じられます。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム結
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県藤沢市亀井野4 - 12 - 93
記入者名 (管理者)	加藤律子
記入日	平成 19年 8月 4日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・ホーム居室を自宅居室に近い環境を維持する ・家族、地域の方々の来所しやすい環境作り		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に理念を掲げ、会議などを通して話し合いの機会を持っている ホーム内外での研修や勉強会を積極的に行っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域で暮らすことの大切さを、運営推進会議等を通して説明を行っている ホーム内の行事に招待するのではなく、参加して利用者の方の現状を見て頂く事を積極的に行っている		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺に案内を貼り、自由に来所出来る旨を掲示している		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加したり、町へ出たら、近隣の人と挨拶を交わす等自然と交流できている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>			特に認知症の家族を抱え、悩んだり困っている方々の力になることが出来る場面を作れればと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価について会議で話し合う機会を持ち、改善すべきと感じることに対し、改善できるよう取り組んでいる。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議の内容を職員に掲示している		掲示のみではなく、職員間でも、その内容について意見を聞いたり、話し合う機会を持つようにする
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市内グループホーム連絡協議会への参加し、介護保険課の職員と意見を交し合う場面がある		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現入居の方に成年後見制度をお勧めし、活用されたケースがあるので、今後も必要に応じ、説明する機会を持っていく		職員が、勉強会等を開き学ぶ機会を持つようにする
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	マニュアルを作成し職員への徹底を図っている		勉強会を開き、より一層の理解を深める

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をかけて説明を行い、いつでも疑問、質問には対応するようにしている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員はいつでも親身に利用者の話に耳を傾けるよう心掛けており、介護相談員の来所持には、利用者とは話をする機会を設けている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に1度家族宛の状況報告のお便りを作成している ・金銭管理の報告を1ヶ月に1回行っている ・その他報告の必要なものはその都度状況報告を行っている 	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ごとに居室担当を決め、窓口としている ・苦情等の申し立てについて外部の窓口がある旨、明記している 	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議等の機会や、その都度話を聞き、必要に応じて対応を行っている</p>	<p>より一層働きやすい職場とするために、意見の言いやすい環境、関係を作っていく</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>出勤時間、休憩時間の変更を臨機応変に行っている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>状況変化に合わせた対応を心掛けている</p>	<p>離職については課題が大きく、新人が自信を持って働けるシステム作りを整備中である</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外での研修を積極的に行っている		新人指導マニュアルを作成し職員間で統一した指導が出来るように現在検討中
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修先での積極的な交流を心掛けている ・他施設への見学等を行っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	積極的な声掛けをし、いつでも話をする機会や環境を作っている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年1回個々の査定を行い、努力や実績を評価している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントの重要性を重視し時間をかけて本人から話を聞くようにしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントの重要性を重視し時間をかけて家族から話を聞くようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況を考慮し、必要なサービスを他の機関との連携を図りながら支援している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	半日、1泊等徐々に馴染める様に関係づくりを個々に応じて行っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先達として敬意をはらい、本人の生活暦等を念頭に、時にはお互いの相談にのる等、人対人の関係を築くよう心掛けている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に「見てもらっている」と言う感情を抱かせないように、常に同じ立場で接するように心掛けている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	アセスメント表等を利用して、双方の話を十分に聞き、関係を理解し、より良い関係を築けるよう努力している 普段の会話の中からも、良い関係作りになるヒントを模索して職員間で情報を共有出来るようにしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人達の来所していただけるよう働きかけている ・馴染みの場所に出かける機会を持っている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個々の性格を把握し、居心地のいい関係でいられるように努力している 状況や関係の変化に臨機応変に対応するよう努力している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご近所の方で退所後にもお会いし話をする機会があったため、特別に関わりを継続するケースはなかった		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人又は家族の希望を考慮し、日々接している職員からの聞き取りを行い、個々に適したケアプランの作成を行っている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表等を利用し、必要に応じて本人、又は家族からの聞き取りを常時行っている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間アセスメント表、出来る事・出来ないことシート、事故防止アセスメント表等を作成し、把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人を取り巻く関係者(家族・職員)からの意見を計画に反映させたプランの作成を行っている		現状ケアプラン更新前に希望や要望を聴取するのみだが、ケアプラン会議に家族の参加を呼びかける試みもしてみたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に囚われず、本人の現状に沿った内容への変更を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々のノートを作成し、職員個人が得た情報を記録し、職員全員で情報の共有を図っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算を申請しており、重度化へ対応ができるよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方に、運営推進委員会への参加を促したり、警察には行方不明時の捜索の協力のために写真付の資料を配布したりしている		非常災害等に備え、近隣消防との連携を図っていきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在入居されている方に関しては、その様な機会がなかったため、実施していない。		必要と思われるケースに直面した時には、連携を図ってきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在入居されている方に関しては、その様な機会がなかったため、実施していない。		必要と思われるケースに直面した時には、連携を図ってきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の病院と連携をとり、2週間に1回の往診を行っている。また必要に応じて体調変化時に、臨時での往診を依頼している 内科・皮膚科・歯科・眼科		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	取り組みの事実なし		適切な診断や治療を受けられればと思うが、そのような医師を探すことは困難な状況にあり、今後も、情報収集に努めたい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1週間に1回の訪問看護を依頼している。又必要時には臨時での訪問看護を依頼している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時には入院に至るまでの経過、既病歴その他病院側の求めた情報の提供を行っている ・入院中は家族から随時経過報告を受けている ・退院時は病院よりサマリーを受け取り職員間で退院後の対応を検討している		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の取り決めは、契約の際に説明してある他、重度化に伴い、常に個別に、ご本人・家族の希望も取り入れながら、主治医と連携を図り、情報を共有、話し合いを重ねている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ケアの方向性を明確にし、常に主治医との連携を図っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必要な情報は、求めに応じ全て提供している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>細心の注意を払っている。</p> <p>・入職時に守秘義務を誓約書内で確認・ご家族とは個人情報提供同意書にて、取り決めを交わし、その範囲内での利用に留めている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の状況に合わせた環境作り、声掛けにて自らが意思決定出来るように支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員一人ひとりが個々の希望を感じて連携をとりながら支援している</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の協力も仰ぎながら、個々の希望に沿ったおしゃれが出来るように配慮している(パーマ・染髪・化粧等)</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の嗜好に配慮しながらメニューを決定し、能力にあった食事作りへの参加を促している、又時には外食、出前等の変化もつけた支援を行っている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の希望があれば、医療、家族と相談をして本人の希望に沿うように提供している(ビール1本以上の希望があればノンアルコールビールでの対応など)</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、失敗やおムツなどの使用を極力少なく出来るよう、羞恥心にも配慮しながら支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望に合わせて入浴出来るように配慮射ている(個々の入浴温度に設定する・入浴剤の使用・入浴後のピール)		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・入床前には安心できるような声掛けを行う ・入床時間は個々の希望時間		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出、外食、ドライブ、映画鑑賞、ゲーム等の楽しみ事や家事全般の役割を状況に合わせて提供し、個々の活力となるように支援している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用が可能な方には個人で財布を持って頂いている、又人におごることが楽しみな方には気持ちよく出して頂いて、後で本人に気づかれないように返金する		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物、外食等家族の協力も仰ぎながら行っている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	箱根へ遊覧船に乗りに行く、居酒屋へ飲みに行く、家族を交え外食へ出かける等、個々の好みや希望に合わせて場面作りをしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じた支援や、家族関係を考慮した上で、こちらから働きかけたりしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者の方が気持ちよく過ごせるよう、受け入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、行わないよう努めている。 定期的にマニュアルの確認を行っている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯職員が1人になるとき以外の施錠は、原則行っていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認、安否確認の徹底を常時行っている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手の届かない場所への保管、施錠できる場所への保管を行っている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止アセスメントの作成、行方不明者マニュアルの作成、緊急時マニュアルの作成等、取り組んでいる。 定期的にマニュアルの確認を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の救急救命講習の受講を行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の実施、運営推進会議での地域への協力の呼びかけをしている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況の変化に応じて個々のリスクについて家族との話し合いを行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル、水分、水分、食事摂取表を利用して、体調変化に気づき易い環境を整備している ・必要に応じて医療との連携を図っている ・緊急時の速やかな対応のため、職員の緊急連絡網を作成		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬名、効能を個々にファイリングしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表に基づき、取り組んでいる		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に適した方法で援助している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、水分・食事摂取量チェック表を用いて職員間で状況の把握を行っている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアル作成している 定期的にマニュアルの確認を行っている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアル作成、消毒方法マニュアル作成しており、統一した方法で管理している。 定期的にマニュアルの確認を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や木を植え、明るく親しみやすい環境作りを行っている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に季節の装飾品を置き、照明などにも配慮を行っている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやついたてを利用している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	自宅から使用している家具を持参して頂き、住み慣れた環境 作りに配慮している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	エアコン、扇風機、除湿機等を利用し状況に応じた室内環 境に配慮している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	手すりや、肘付きなど、身体機能に応じた工夫をしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	自主性を重んじ混乱や失敗に繋がらない様、批判や評価を せずに、個々の心身の状態観察を常時行っている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	周囲に畑や花壇、池を作り、目で見、手で触れて楽しめる ように配慮している		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームとしてあるべき姿に少しでも近づけるよう、日々努力しています。開所7年目に入り、入居されている方の重度化に伴い、日々の生活にもゆとりが持ちにくい現状がある中でも、一人一人の方をしっかりと見つめ、出来ることや、したいこと・好みを大切に、生き生きと生活できるよう取り組んでいます。住み慣れた藤沢で、こんな所なら、お世話になってみても良いかな、と思えるようなホームであればと思います。認知症を理解し、しっかりと受け止めていきます。